

協働のかしわ情報発信チーム：

協働ってなあに？ 活動を聞きに行く（その4）【市民団体×町会】

布施新町いきいきネットワーク

地域で自主的な防犯・防災活動や健康づくり、ボランティアや趣味を通じて親交を深める活動を推進されている、「布施新町いきいきネットワーク」の皆さまに是非お話をうかがいたいと、昨年末、柏市北西部の布施新町へおじゃましました。（取材日：令和2年12月18日）

待ち合わせ場所に指定された布施新町第三公園に到着すると、三々五々近所の方が集まられて40名ほどに。冬晴れの青空の下、リーダー坂東さんの掛け声と、ラジカセから流れる軽快な音楽に合わせて健康体操が始まりました。おなじみのラジオ体操から脳トレ体操など、実際に体を動かしてみるとかなりの運動量で、ついていくのがやっと！コロナ禍で地域のイベントも軒並み中止になる中、この「ふれあい健康体操の会」は参加者数が以前よりも増えているようで、顔を合わせて交流ができる貴重な場であることを実感しました。



元気に体を動かす！



リーダーの声に合わせてイチニ！

30分ほど体操をした後、布施新町ふるさとセンターへ。「布施新町いきいきネットワーク」の塚本さん・内山さん・佐藤さんにインタビューをさせていただきました。「布施新町いきいきネットワーク」では、健康長寿のまちづくりに向けて、①ふれあいパトロールの会②草花で街を明るくする会③ふれあい健康体操の会（塚本さん代表）④布施新町支えあいネット⑤布施新町ものがたり広場（佐藤さん代表）⑥ホームページ委員会（内山さん代表）⑦布施新町みらいプロジェクト⑧布施新町脳トレ麻雀クラブ、の8つの事業が実施されています。活動のきっかけは、平成23年度の布施新町町会で、地域活動を行うボランティア団体の設立について行われた協議。多くの町会同様、町会役員は1年で交代するので長期的課題への対応が難しく、継続性の面から有志による団体の設立が検討されたとのことでした。団体

は町会とは異なる組織ですが、歴代の町会長経験者が顧問として入会され、円滑な連携が可能になっています。活動資金としても、町会からの助成金や、ふるさとセンターの庭管理受託金が収入の柱となっており、町会との関わりが団体の運営を支えています。

8つの事業は、それぞれのグループによる自主運営が基本。月一回、当番制の運営委員会で活動報告を共有しながら、皆フラットな関係で運営されています。自由度の高い活動が活発に行われている背景には、町会内1200世帯の住民の多くが同年代で現役時代は会社勤めであったという「ゾーンの一定」も理由として挙げられていました。

「活動の中で楽しさや喜びを感じることは何ですか？」とお尋ねしたところ、3名の方が口々に「知り合いが増えた(以前は、地元知り合いはいなかった)」「体を動かす機会になり健康になる」「地域の情報を得られる」「他地域との交流ができる」と、明るい表情で答えられました。「活動の中で大変に感じられていることは？」という質問も投げかけてみたところ、「後継者不足」「家に閉じこもっている男性の参加」と、こちらは各人共通のお悩み。「後継者不足」については、約170名の会員の平均年齢は75歳。世代交代が課題であり、町会活動などを通じて口コミでスカウトしているのが実情とのことでした。

団体設立から9年が経過し、多様な活動が展開されている「布施新町いきいきネットワーク」の皆さんが今後実現したいことは、スタート時以来のテーマである“健康長寿のまちづくり”を実現すること。コロナ禍でも健康体操の参加者は増えており、近年フレイルチェックの参加者も増加傾向にあることから、健康長寿への意識の高まりが感じられるそうです。活動に参加しない人へのアプローチを続けながら、認知症予防の活動や孤食対策、これから地域が増えていくことが予測される空き家の有効活用などにも取り組むことができれば、と熱意の伝わるまなざしで語っていただきました。



塚本代表

柴田副代表



佐藤さん

内山さん

【協働のポイント】

布施新町町会とのスムーズな連携・協働を軸に、地域に密着した活動が継続されています。町会からは助成金や回覧・掲示板での広報協力を得て、団体が夏祭りなど町会行事を支

援するといった win-win の関係。町会長経験者の団体加入により、自然と連携体制がとれているという印象を受けました。また事業の一つである「布施新町みらいプロジェクト」では、東京大学や柏市、柏市社会福祉協議会との協働により超高齢社会における新しいコミュニティのモデルづくりが進められており、若い世帯や子どもたちも参加しているとのこと。高齢化が進む中、町会自治会加入率の低下や役員のなり手不足は、どの地域にも共通する課題ですが、既存の町会組織と連携しながら、未来志向の活動を実践されている「布施新町いきいきネットワーク」の皆さまの活動スタイルには、多くのヒントがあるように実感しました。

(取材・レポート:情報発信チーム 深津英雄・二瓶陽子)